

【資料紹介】江戸東京博物館蔵永江維章関係資料について

宮本花恵*

目次

はじめに

- 1 永江維章関連資料の形態
- 2 特色のある資料群
 - 2-1 日清日露風景
 - 2-2 関東大震災
 - 2-3 戦中期の文化財調査と記念撮影
 - 2-4 写真集『輝く肇国』刊行
 - 2-5 田遊び関係資料と性崇拜

おわりに

キーワード 永江維章 永江博 旅順法院 関東大震災 航空写真 戦中期文化財調査
田遊び 性崇拜

はじめに

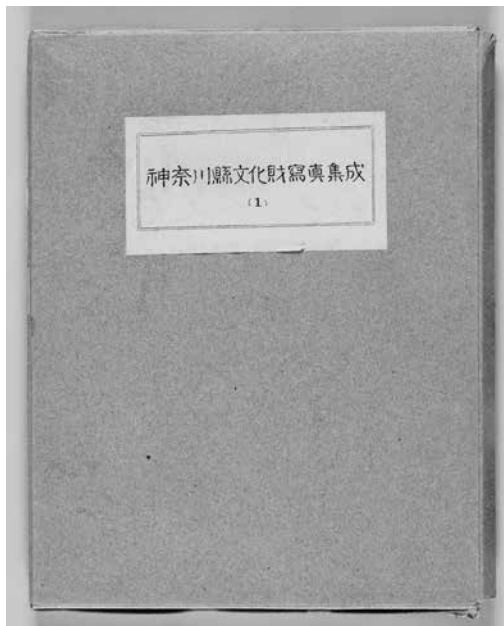
当館収蔵の永江維章関係資料を紹介する。当館には、永江維章（永江博、1886～1963）が撮影した写真を主に含む、11,000点あまりの関係資料が収蔵されている¹⁾。このうち写真集「おもかげ」（90010459-90010589）、写真集「東海道五十三次集成」1（90010592-90010798）、写真集「東海道五十三次集成」2（90010799-90011030）は既に当館デジタルアーカイブスにて公開している。

本稿は、すでに公開分以外の、令和4年度デジタルアーカイブスにおけるデータの再整理に際して得られた成果を報告するものである。令和4年度整理分は、9,038点（整理者：岡本伽椰、宮本花恵、渡邊華）となり、この整理によって、当館蔵永江維章関係資料の大部分が明らかとなった。令和4年度整理分の永江維章関係資料は、令和6年（2024）3月31日に公開予定である。本稿では、主に、特色のある写真資料群、または年代が特定できる写真資料を中心に紹介する。

*東京都江戸東京博物館学芸員

1 永江維章関連資料の形態

当館収蔵の永江維章関係資料の特色の一つは、永江氏が撮影・編集した写真資料群の存在である【表1】。これらの資料群には、永江氏自身が撮影した写真の他、生年からみて複写したとみられる明治前期の写真も含まれる。形態は、帙や紙のケースに一括されたものや【写真1】、バラの写真がグループ毎にまとめられた写真資料群がある。帙などで一括された写真資料群は、多くは1枚毎の台紙に、写真と解説が貼られた形状であった【写真2】。それらの一部は、貼られた奥付から、郷土史料写真社から発行したことが分かる。



【写真1】「神奈川県文化財写真集成 第一集」
90008014



【写真2】「1. 景観 足柄峠」90008014

【表1】永江維章関係資料 主な資料群

資料番号	資料名	作者	発行所	時代	年代	西暦
90008014-90008038	神奈川県文化財写真集成 第一集	永江維章/撮影 石野瑛/解説	郷土史料写真社	昭和前期		
90008039-90008208	[明治期写真一括]			明治期		
90008209-90008277	[歴代天皇御陵写真 第一集]	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90008278-90008351	[歴代天皇御陵写真 第二集]	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90008352-90008399	国史写真大集成 (先史、原史)	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90008454-90008505	報徳遺跡写真集	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90008400-90008453, 90008950-90009007, 90009014-90009032, 90009035-90009096,90009110	日清日露風景	永江維章/撮影		大正期		
90010409-90010458 90010590-90010591	おもかげ 第一期	永江維章/編輯撮影発行	郷土史料写真社	昭和前期	昭和14年	1939
90010459-90010589	おもかげ 第二期	永江維章/編輯撮影発行	郷土史料写真社	昭和前期	昭和14年	1939
90010592-90010798	東海道五十三次集成 1	[永江維章/編輯撮影発行]		昭和前期		
90010799-90011030	東海道五十三次集成 2	[永江維章/編輯撮影発行]		昭和前期		
90011031-90011200	関東大震災	[永江維章/撮影]		大正末期	大正12年	1923
90011212-90011242,90011478	田遊び (練馬区水川神社)	永江維章/編輯撮影		昭和前期		
90011243-90011321, 0011479-90011480,90011526	田遊び (板橋区下赤塚諏訪神社)	永江維章/編輯撮影		昭和前期		
90011322-90011416	田遊び (板橋区徳丸北野天神社)	永江維章/編輯撮影		昭和前期		
90011483-90011525	横須賀鎮守府検閲済写真	永江維章/撮影		昭和前期		
90017938-90017949	[集合写真]	永江維章/撮影		[昭和前期]		
90017970-90018070	日本民俗信仰資料写真集成第三集	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90018092-90018137	日本民俗信仰資料写真目録第四集	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90018145-90018187	[各種動物]	永江維章/撮影		[昭和前期]		
90018201-90018235	[網火関係]	永江維章/撮影		[昭和前期]		
90018288-90018338	日本民俗信仰写真集成第一集	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90019026-90019081	[芸能]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019114-90019138, 90019576-90019591	[風景他着色]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019139-90019177, 90019179-90019207, 90019369-90019382, 90019566-90019575	[人物]	永江維章/編輯撮影		昭和前期		
90019208-90019247, 90019248-90019270	[動植物]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019271-90019316	[各種文書]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019383-90019564, 90020648-90020660, 90020664-90020709	[彫刻]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019592-90019791	[墓]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019792-90019913	[シンボル]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019914-90019948, 90019950-90019951, 90019953-90019986	[各地鎮守府関係他]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90019987-90020092	[日本民俗信仰資料写真集成関係]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90020094-90020418	[古代]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90020419-90020564	[史蹟等風景]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90020719-90020739	[船舶関係]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90020912-90021068	[寺院・社殿]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90021069-90021085	[鐘]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90021086-90021101	[神木]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90021123-90021210	[考古資料]	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90021219-90021332	藤沢市郷土資料	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90021333-90021587	[九州社寺]	永江維章/編輯撮影		昭和前期		
90024243-90024336	日本民俗信仰資料写真目録第六集	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90024337-90024393	[日本民俗信仰資料写真目録第七集 海外資料]	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90024441-90024520	吉野朝写真集	永江維章/編輯撮影		昭和前期		
90024521-90024615	上代写真集	永江維章/編輯撮影		昭和前期		
90024628-90024657	絵馬	永江維章/編輯撮影		[昭和前期]		
90025186-90025233, 90025280-90025281	[動物写真集]	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90025234-90025281	房総文化財写真集成 第一集	[永江維章/編輯撮影発行]		[昭和前期]		
90025357-90025614	先史原史写真集	[永江維章/編輯撮影発行]		昭和前期		
90025615-90025772, 90025802-90025991	[日本民俗信仰資料写真目録関係]	永江維章/撮影編輯		[昭和前期]		
90025992-90026108	御陵写真集	[永江維章/編輯撮影発行]		昭和前期		

凡例：1. 永江維章関係資料のうちまとまりのある写真資料群を一覧にした。

2. 推定される場合は [] を用いた。

他館に収蔵される、永江氏が撮影・編集した、同一の形態のものに、国立国会図書館蔵『上代写真集』、神奈川県立図書館蔵『神奈川県文化財写真集成 第1集』、川越市立図書館蔵『明治時代の写真集』・『上古史料写真大集成（先史原史時代）』・『埼玉史料写真集成』がある。

また当館は、昭和16年（1941）3月8日付の記入済み「郷土教育資料写真集成「輝く神奈川県」第一期分申込書」（90026132）を収蔵している。これは、「郷土教育資料写真集成「輝く神奈川県」」（90011417-90011477）の申込書と考えられる。さらに当館収蔵品には、写真資料群と重複する個別の写真が多数収蔵されている。以上のことから、秩などに一括された写真集は、永江氏が撮影から編集、発行まで手掛け、かつ受注生産していた可能性が高い。発行元の、郷土史料写真社も永江氏の主宰とみられる²⁾。

永江氏75歳のインタビュー記事には、次の記載がある。

翁が庶民の生活史の研究に手を染めたのは二十五歳のときではじめは、古蹟をめぐり文化財を探して写真を撮って歩くのから始まった。本職が写真家であるからだ。初の大仕事は法隆寺の金堂の写真の模写であった。（中略）交通がいまほど便利でない時代、何貫目もある暗函写真機を肩に、乾板を入れた重いリュックを背負って全国の神社仏閣、古跡、史跡をくまなく歩き、ものにした写真がなんと二十四万枚。（中略）中でも逸品は、翁苦心の傑作、江戸の面影集と日本民俗資料集の二つ。今後も生きているうちは全国を股にかけて写真を撮るのだと、意気軒昂である。³⁾

上述の記事から、永江氏が文化財を撮影し始めたのは生年からみて明治43年（1910）頃と推定される。インタビューから、当館に収蔵されている写真資料群は、永江氏が「全国を股にかけて」撮影した「二十四万枚」の一部である。記事にある「江戸の面影集」は当館収蔵の写真集『おもかげ』、「日本民俗資料集」は、『日本民土俗信仰写真集成』のことであろう。永江氏は、戦後も日本民土俗研究会を主宰し、文化財および民俗調査の撮影を、晩年まで精力的に続けていた。

岡塚章子氏の指摘に「大正時代には、写真を職業とする以外にも、写真撮影をする人々、アマチュア写真家が出現する。彼らは写真を芸術と考え、仏像などの文化財を写真表現のモチーフとして撮影し、数多くの作品を生み出している」⁴⁾とある。永江氏も大正時代初めごろまではアマチュアの写真家であったとみられる。そこから写真を生業とする萌芽へ至るには、時代的な要因など複数あったのではないか。

次章から、当館収蔵の永江維章関係資料の特色を取り上げながら概観したい。

2 特色のある資料群

2-1 日清日露風景

前述のように、永江維章関係資料には一括した写真資料群として、まとまりをもったものが多い。このうち「日清日露風景」（90008400-8453, 90008950-90009097, 90009110）と題した資料群を紹介する。これらの資料名は、収蔵時に、永江氏が日清・日露の戦地へ赴いて写真技術を修得したとの聞き取りによる。

確かに「東鷄冠山ノベトン飛散砲架破壊状態」（90008400）のように、日露戦争の跡地が撮られているものが含まれる。しかし各写真をみると、裁判に関連したと思われる写真（90008966-90008972, 90009015-90009025）や靖国神社慰霊祭（90008980-90008985）など、多様な被写体が含まれていた。

特筆すべきものとして、裁判の傍聴席を撮影したと思われる写真【写真3】のほか、安重根をはじめ、伊藤博文暗殺事件の関係者ら柳江露、曹道先、禹連俊の近影も収蔵されている。このほか、大韓帝国初代（朝鮮王朝26代）高宗、2代順宗、その後である純貞孝皇后尹氏、王女の徳恵翁主とみられる近影もあり、「日清日露風景」の範囲に留まらない被写体も多数あった。そのため、「日清日露風景」と一括された資料群ではあるが、写真裏面など読み取れる情報をできるだけ反映させリネームし公開の運びとなった。なお【資料3】のように前後の資料から推定した資料名には便宜的に推定の括弧を用いた。



【写真3】「[伊藤博文暗殺事件裁判関連写真]」90008968

これらの一括された写真資料群の中に、時代年代が特定できるものが2点ある。1点目は、大連にある黄金海岸海水浴場を撮影した写真（90009077, 【写真4】）である。裏面には、「大正二年八月十四日／黄金山下海水浴／法院／永江博」とある。その横に、大正2年（1913）8月21日付朱印で旅順要塞司令部の検査済みの朱印が押されている。2点目は、同じく大連の「星ヶ浦」の漁船を撮影した写真（90008960, 【写真5】）で、大正4年（1915）8月11日付、旅順要塞司令部の検査済みの朱印が押されたものである。当時の永江氏について、昭和4年（1929）に出されたコラムに、「遠く日露戦役の直後、旅順の法院に在勤中から芽生えた写真熱⁵⁾とある。旅順にいる間に「写真熱」が上がったとあり、この点は収蔵時の聞き取りにある写真技術の修得時期と一致する。

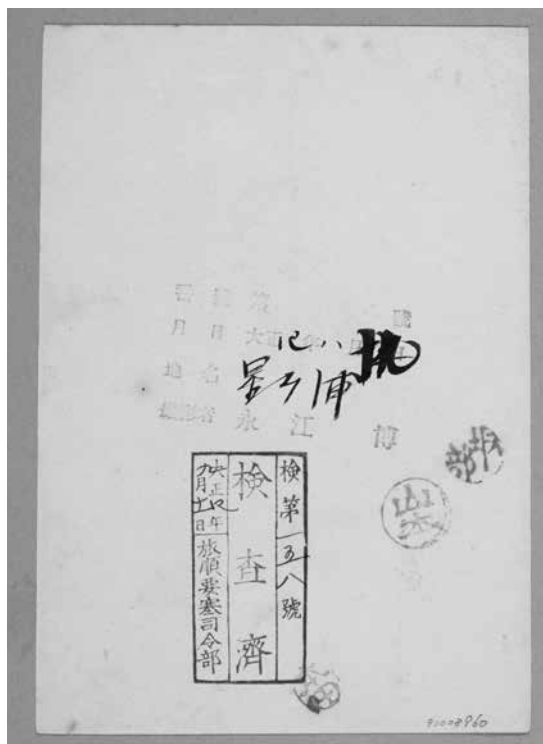
さらに写真の裏面の情報とコラムの内容から、当時の永江氏は「旅順の法院」に勤務していたことが分かる。「旅順の法院」とは、関東都督府に置かれた法院を指す。明治39年（1906）7月31日勅令第196

号によって「関東都督府官制」が公布、同年9月1日より施行され⁶⁾、旅順に関東都督府が設立された。同年、「関東都督府法院令」が施行され、旅順に関東都督府高等法院および地方法院が設立された⁷⁾。勤務地から推して、永江氏はもともと司法省にいたものとみられる。

整理すると、「日清日露風景」と題された203点の写真資料群は、明治39年(1906)から、大正4年(1915)頃に撮影・収集されたものとなる。伊藤博文暗殺事件裁判の第1回公判は、明治43年(1910年)である。裁判に関する写真は、永江氏が法院に勤務している際に、撮影または入手した可能性が高い。従来、活用の機会を逸していた写真資料群であるが、永江氏の履歴にせまることで活用の幅が大いに広がる⁸⁾。



【写真4】「旅順大連風景 黄金海岸海水浴」(表・裏) 90009077



【写真5】「旅順大連風景 星ヶ浦」(表・裏) 90008960

2-2 関東大震災

次に紹介するのは、「関東大震災」（90011031-90011200）と題した写真資料群である。永江氏は、大正4年（1915）には日本へ戻っていた。なお永江氏の経歴については本号掲載の渡邊論考を参照されたい。翌大正5年の『写真月報』の記事に「永江博君は牛込区矢来町十一番地ろノ十二へ転居」⁹⁾との記載がある。さらに「高橋写真フィルム研究所のあゆみ」¹⁰⁾によると、大正8年（1919）2月11日に、現在の東京都豊島区雑司ヶ谷に設立した東洋乾板株式会社の従業員に「永江博」の名前が確認できる。

上述をふまえ収蔵資料をみると、「関東大震災 地震当時池袋ヨリ見タル煙」（90011064, 【写真6】）の裏面には、「大正十二年九月二日／夜の猛煙／市外池袋より／地震当時池袋ヨリ見タル煙」とあって、震災の翌日に池袋から見た白煙が撮影されている。震災の頃、永江氏が東洋乾板株式会社に在籍していたかは不明である。東洋乾板株式会社は、国産乾板を常用してくれる写真師は少ないうえ、在庫が積み上がっていたところ、震災により、原料ガラス、薬品をはじめ、大量の在庫乾板が粉碎の大損害を受けたという。写真資料群をみると永江氏の場合は、震災時にあっても撮影に使用する原料や薬品は比較的入手可能な環境にあったようである。



【写真6】「関東大震災 地震当時池袋ヨリ見タル煙」（表・裏）90011064

さて、「関東大震災」（90011031-90011200）の一群には、航空写真が47点含まれる【表2】¹¹⁾。本写真資料群と同じ航空写真が、大正13年（1924）3月刊行の関東戒厳司令部編『大正震災写真集』¹²⁾の図版3点と一致した。『大正震災写真集』掲載の航空写真は、全部で31点（垂直写真17点、斜写真14点）あり、このうち収蔵資料の垂直写真3点が一致した。関東戒厳司令部は、震災の発生直後に、行政戒厳（戒厳令の一部適用）の実行組織として設置された陸軍の臨時司令部である。そのため、震災直後にあっても、航空写真の撮影が可能であったと考える。

次に一致した収蔵資料を挙げる。「関東大震災 両国・蔵前付近航空写真」（90011045）、「関東大震災 飛行機より見たる浅草公園」（90011048）、「関東大震災 飛行機上から見た日本橋・隅田川」（90011086）の3点である。これらは、大正15年（1926）に東京市が刊行した『東京震災録地図及写真帖』にも図版として掲載された¹³⁾。同じく大正15年（1926）に内務部社会局から刊行された『大正震災志写真帖』¹⁴⁾

【表2】 関東大震災 航空写真

	資料番号	資料名	時代	年代	西暦	寸法_縦	寸法_横
001	90011040	関東大震災 平塚付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	9.7	14.5
002	90011041	関東大震災 平塚付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	9.7	14.5
003	90011042	関東大震災 築地付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.4
004	90011043	関東大震災 永代橋・石川嶋造船所付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
005	90011044	関東大震災 永代橋・石川嶋造船所付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
006	90011045	関東大震災 両国・蔵前付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
007	90011046	関東大震災 後楽園付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	10.2	14.9
008	90011047	関東大震災 後楽園付近航空写真	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
009	90011048	関東大震災 飛行機より見たる浅草公園	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
010	90011049	関東大震災 飛行機上より見たる赤坂新町の焼跡	大正末期	大正12年	1923	9.6	14.5
011	90011050	関東大震災 飛行機上より見たる赤坂新町の焼跡	大正末期	大正12年	1923	9.6	14.5
012	90011057	関東大震災 飛行機上より見た丸ノ内・東京駅付近	大正末期	大正12年	1923	12.0	16.4
013	90011058	関東大震災 飛行機上より見た丸ノ内・東京駅付近 (その二)	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
014	90011059	関東大震災 飛行機上より見た丸ノ内・東京駅付近 (その二)	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
015	90011072	関東大震災 飛行機上より見た日本橋付近	大正末期	大正12年	1923	9.5	14.1
016	90011073	関東大震災 飛行機上より見た日本橋付近	大正末期	大正12年	1923	11.9	16.4
017	90011075	関東大震災 飛行機上から見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	12.8	27.0
018	90011076	関東大震災 飛行機上から見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	15.3	20.5
019	90011077	関東大震災 飛行機上より見た上野不忍池	大正末期	大正12年	1923	15.5	20.3
020	90011078	関東大震災 飛行機上より見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	16.8	22.7
021	90011079	関東大震災 飛行機上より見た越中島糧秣廠	大正末期	大正12年	1923	15.2	20.2
022	90011080	関東大震災 飛行機上より見た越中島糧秣廠	大正末期	大正12年	1923	15.2	20.3
023	90011081	関東大震災 飛行機上より見た越中島糧秣廠	大正末期	大正12年	1923	15.2	20.2
024	90011083	関東大震災 飛行機上より見た銀座	大正末期	大正12年	1923	11.3	16.2
025	90011084	関東大震災 飛行機上より見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	16.7	23.0
026	90011085	関東大震災 飛行機上より見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	16.7	23.0
027	90011086	関東大震災 飛行機上から見た日本橋・隅田川	大正末期	大正12年	1923	16.5	23.7
028	90011087	関東大震災 飛行機上より見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	15.2	20.1
029	90011088	関東大震災 飛行機上より見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	16.4	22.9
030	90011089	関東大震災 飛行機上より見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	16.4	22.9
031	90011090	関東大震災 飛行機上より見た横浜港	大正末期	大正12年	1923	16.4	22.9
032	90011091	関東大震災 飛行機上より見た平河町付近	大正末期	大正12年	1923	15.0	20.2
033	90011092	関東大震災 飛行機上より見た平河町付近	大正末期	大正12年	1923	15.0	20.2
034	90011093	関東大震災 飛行機上より見た平河町付近	大正末期	大正12年	1923	15.0	20.2
035	90011094	関東大震災 飛行機上より見た銀座	大正末期	大正12年	1923	14.9	20.2
036	90011095	関東大震災 飛行機上より見た丸ノ内	大正末期	大正12年	1923	15.0	20.2
037	90011096	関東大震災 飛行機上より見た丸ノ内	大正末期	大正12年	1923	15.0	20.2
038	90011097	関東大震災 飛行機上より見た丸ノ内	大正末期	大正12年	1923	14.7	20.2
039	90011098	関東大震災 飛行機上より見た佃島・芝浦付近	大正末期	大正12年	1923	16.6	22.6
040	90011099	関東大震災 飛行機上より見た佃島・芝浦付近	大正末期	大正12年	1923	16.6	22.6
041	90011100	関東大震災 飛行機上より見た神田駅付近	大正末期	大正12年	1923	15.2	20.2
042	90011101	関東大震災 飛行機上より見た芝・増上寺付近	大正末期	大正12年	1923	15.2	20.1
043	90011103	関東大震災 飛行機上より見た上野不忍池	大正末期	大正12年	1923	15.2	20.2
044	90011119	関東大震災 飛行機上より見たる馬入川沿岸の大亀裂と橋梁の墜落	大正末期	大正12年	1923	9.8	14.5
045	90011164	関東大震災 飛行機上より見た日本橋・隅田川	大正末期	大正12年	1923	12.0	16.5
046	90011178	関東大震災 飛行機より見た東京市中心部	大正末期	大正12年	1923	11.1	27.3
047	90011179	関東大震災 飛行機より見た東京市中心部	大正末期	大正12年	1923	7.5	26.2

には、「飛行機より見たる馬入川」2点の図版が掲載されている。別の構図ではあるが、当館にも「関東大震災 飛行機上より見たる馬入川沿岸の大亀裂と橋梁の墜落」(90011119)が収蔵されている。

さて永江氏の航空写真の中の一枚である「関東大震災 飛行機上から見た日本橋・隅田川」(90011086, 【写真7】)の下辺には「飛五-H1000-F050-12.9.5.ゼ.9東イノ.2」、左上には「P.小田曹長O.林少尉」の文字情報がある。なお同じ図版が掲載されている『東京震災録写真帖及地図』では、その部分はトリミングされている。



【写真7】「関東大震災 飛行機上から見た日本橋・隅田川」90011086

読み取れた情報から、航空機「飛五」より撮影高度（H）1,000m、焦点距離（F）50cmで、撮影日は大正12年9月5日であった事が分かる。「ゼ.9東イノ.2」は撮影地点を表すと考える。かつ操縦者（P）は小田曹長、偵察者（O）は林少尉であった。さらに当館収蔵資料は航空写真ながら、地上を歩いている人物を視認できるほど鮮明である。おそらくネガから直接焼きつけた写真ではないか。

整理すると、当館収蔵の「関東大震災」と題された写真資料群には、震災直後に撮影された航空写真が含まれている。これらに、大正13年から15年の間に刊行された写真帖に掲載された図版も含む。翻って、これらに掲載されていない航空写真も当館は収蔵している。

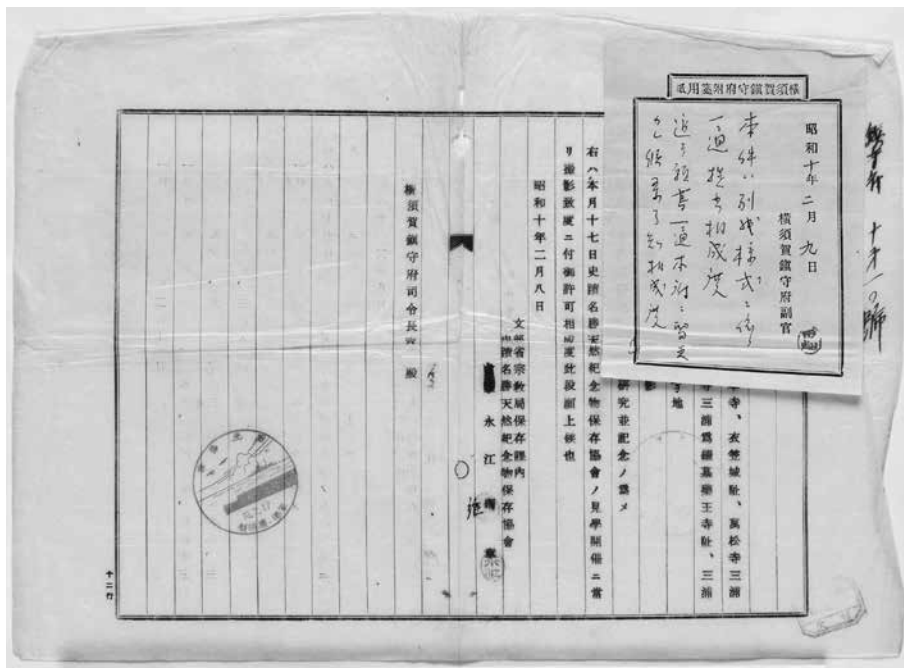
なお大正13年（1924）3月刊行の関東戒厳司令部編『大正震災写真集』に所収の写真撮影は、オリエンタル写真工業の社長の菊地東陽氏と取締役の五十嵐与七氏が中心となり行われた。社史によると、「デー・ゼル・エンヂン工業株式会社社長安達堅造氏が、菊地東陽氏を参謀本部に同道し、震災状況の撮影に当たらしめた事があつた。この調整は、重役会で取締役五十嵐与七氏と決定した。（中略）この撮影は我社の印画紙の性能を示すには絶好の好機であつたから、殆ど犠牲的に撮影した」¹⁵⁾とある。この中には航空写真に関する言及はないが、永江氏は大正13年から同社に勤務している¹⁶⁾。

収蔵している写真の特徴や永江氏の動向から、永江氏が撮影・印画に関係した一人である可能性が高い。しかしながら、航空写真を含む関東大震災の撮影と永江氏の関係性の確証を得るには至らなかった。今後も比較研究を続ける事で、新しい発見が期待できる。

2-3 戦中期の文化財調査と記念撮影

次に戦中期の写真資料群について紹介したい。この時期には、永江氏の写真も検閲を受けていたようで、「横須賀鎮守府検閲済写真」と題された写真が43点収蔵されている。写真の裏面に、「横須賀鎮守府／17.6.23／検閲済」と、スタンプが押されたものがあり、昭和17年（1942）6月23日に横須賀鎮守府の検閲を受けた事が分かる。第二次世界大戦前、とくに嚴重をきわめたのは「安寧秩序紊乱」と「風俗壊乱」の表現を取り締まった政治・風俗検閲である¹⁷⁾。日中戦争以降の戦時段階にはこれが一層きびしくなり、この時期には文化財や史跡の写真においても検閲が実施された事が分かる。

このような時代背景の中、永江氏は文部省の委嘱で各地の有形・無形文化財の撮影を行っていた。当館には、昭和10年（1935）2月8日付、横須賀鎮守府司令長官宛の「横須賀鎮守府内 撮影許可願」（90026138、【写真8】）が収蔵されている。この許可願は、三浦半島の史跡名勝の撮影を願い出たもので、「撮影許可願／一日時 昭和拾年二月十七日／一場所 史跡三浦按針墓、衣笠城址、万松寺三浦大介墓、大躰山清雲寺三浦爲継墓薬王寺址、三浦義澄墓、三浦大介終焉地、三笠艦前会員記念撮影／一目的 史跡名勝天然記念物研究並記念ノ爲メ／右ハ本月十七日史跡名勝天然記念物保存協会ノ見学開催ニ当リ撮影致度ニ付御許可相成度此段願上候也」とあって、差出に「文部省宗教局保存課内／史跡名勝天然記念物保存協会／永江維章[㊦]」とある。



【写真8】「横須賀鎮守府内 撮影許可願」90026138

上記の史跡名勝天然記念物保存協会は、明治44年（1911）に「史跡及天然記念物保存ニ関スル件」が貴族院で可決された後に設立された。この機運を背景として、文化財保護法の前身の一つである史蹟名勝天然記念物保存法（大正8年4月10日法律第44号）が施行された¹⁸⁾。本来的には、文化財保存を目的とした研究が第一義と思われるが、永江氏は三笠艦の前での「会員記念撮影」も許可願に記載している。

三浦半島の史跡名勝見学会は無事に決行できたようで、許可願の余白には「10.2.17」（昭和10年2月17日）付けの軍港・横須賀の観光協会記念スタンプが押されている。

永江氏の文化財調査時の記念撮影は恒例だったようで、「永江氏は、昭和のはじめから文部省の史跡名勝天然記念物保存協会見学旅行に参加し、参加全員の集合記念写真を撮影してくれた人で、いつしか斯界の名物男になっておりました」¹⁹⁾との記載がある。

以上を踏まえて収蔵資料をみると、たしかに日本各地の神社仏閣をはじめとした史跡の前で撮られた集合写真が多いことに気づく。集合写真を具にみることで、昭和前期の史跡名勝天然記念物保存協会の実態や、永江氏の交友を知る一助になる。永江氏の人物像を見出せる点でも興味深い。

2-4 写真集『輝く肇国』刊行

永江氏の戦前の功績の一つに、昭和15年（1940）3月に刊行された写真集『輝く肇国』の図版撮影がある。これは、帙に一括されたバラの形態と異なり、製本されたものである。刊行の趣旨には「神武天皇極ニ登り位ニ即カセ給ヒテヨリ茲ニ二千六百年、（中略）斯界ノ権威者永江維章氏が記紀載スル所ニ従ヒ研究ノ上遍ク各地ヲ歴訪シ、苦心多年神代以降ノ聖地ヲ謹写セル力作中ヨリ厳選スルコト二百余点」²⁰⁾とあって、永江氏が撮影した図版である点が明記されている。

さらに上記の内容から、『輝く肇国』の刊行が、紀元二千六百年記念行事の一環であることが分かる。紀元二千六百年記念行事では、橿原神宮や陵墓の整備などの記念行事が計画・推進された²¹⁾。そのため『輝く肇国』の撮影地は、神武天皇の足跡を辿るものであった。表題は当時の貴族院議員の佐藤鉄太郎、題字は、神宮奉斎会長の今泉完介、貴族院の徳富猪一郎、内閣総理大臣の米内光政、宮内大臣の松平恒雄、公爵の近衛文麿、前文部大臣の荒木貞夫、男爵の平沼騏一郎が寄せている。なお永江維章関係資料には、『輝く肇国』に所収の、荒木貞夫題字4点（90024616, 90024617, 90024621, 90024622）と平沼騏一郎題字3点の印刷物（90024618-90024620）が含まれている。これらは製本時の残部とみられる。

さて『輝く肇国』の冒頭には、豊予要塞司令部、下田要塞司令部、由良要塞司令部の許可も明記されている。当館収蔵資料の、豊予要塞司令部地帯係より昭和13年（1938）10月4日付に出された「〔撮影作業許可証〕」（90026134, 【写真9】）を見ると、「由良要塞地帯附近軍機保護法施行区域概見図」の右側に、「出願の件研究せしも、大部要塞地帯外なると、又、要塞地帯にても撮影解除／区域と思考さるゝに付返却す／尚本図より承知せられ度」とあって、事前に撮影が可能かどうかの許可を取った上で、撮影されていたことが分かる。

ここで『輝く肇国』と、永江氏が主宰した郷土史料写真社から刊行された『上代写真集』（1939）を比較すると、図版が一致する点に気づく²²⁾。『上代写真集』の方が刊記は先ではあるが、おそらく紀元二千六百年記念行事の一環である『輝く肇国』の方が優先されるべき事業であったろう。それにも関わらず『輝く肇国』の刊行に先んじて、自身が主宰する郷土史料写真社で撮影した写真を公表している。ちなみに国立国会図書館蔵『上代写真集』には、「下関要塞司令部検閲済」のゴム印が岡田宮と県社神武天皇社の2か所に押されていた。よって既に検閲は済んでいたことが分かる。

戦中期における文化財調査の実態を知る上でも貴重な事例である。



【写真9】「[撮影作業許可証] 90026134

2-5 田遊び関係資料と性崇拜

戦後、永江氏は各地の民俗調査に力点を置くようになる。その成果として特筆すべきものは、板橋区、練馬区の無形文化財の「田遊び」に関する調査である。収蔵時の聞き取りによると、「田遊び」は、永江氏が戦前採譜した歌詞、写真をもとに戦後行事が復活したという。昭和51年（1976）に、板橋区の「徳丸北野神社田遊び」と「赤塚諏訪神社田遊び」が国の重要無形民俗文化財に選択されている²³⁾。田遊びとは、稲作の作業内容を唱える言葉と所作を田の神に奉納し、豊作を祈願する予祝の祭りである。

これらの写真資料群に、「田遊び（練馬区水川神社）」（90011212-90011242, 90011478）、「田遊び（板橋区下赤塚諏訪神社）」（90011243-90011321, 90011479-90011480, 90011526）がある。「田遊び（練馬区水川神社）」は、昭和35年（1960）4月9日の、「田遊び（板橋区下赤塚諏訪神社）」は、昭和30年（1955）の調査写真が含まれる。永江氏が主宰した日本民俗研究会でも昭和29年（1954）6月20日に『下赤塚田遊び行事 板橋区下赤塚田遊歌詞』（90011207）を100部限定ではあるが刊行している。以上の点から、昭和30年代頃には「田遊び」に高い関心があったことが分かる。

また郷土史家の菊池山哉氏とも交友があったようで、雑誌の編輯後期に「本号田遊の写真は、永江維章先生の寄贈によるもの、附記して御厚志を感謝する。／同先生には田遊に就いて研究され、独自の見解を把握して居られる。つまり性神に関係ありと主張されるのである」²⁴⁾とあって、田遊びに関する写真を提供していたほか、田遊びと「性神」が関係するとの永江氏の主張を記載している。

上述のように、戦後、永江氏は民俗学に傾倒していた。特に、性崇拜に関する写真を多く撮影しており、当館収蔵資料には日本各地の性崇拜に関する民俗行事や石造物の写真を多数収蔵している。さらに性崇拜の興味によるものか、裸弁財天も多数撮影しており、前述のインタビューでは、「江の島の裸弁

天を撮影した第一号」²⁵⁾と紹介されている。江の島の岩屋についても、「石房の行きどまりが女陰の型をしていたため、性崇拜に関係の深い行者たちの修行場ではなかったか」²⁶⁾と指摘しており、永江氏の性崇拜に対する関心の高さがうかがえる。

さらに当館収蔵の「日本民土俗信仰写真集成第一集」(90018288-90018338)には、「16.神奈川県 鎌倉鶴ヶ岡八幡宮 裸形弁才天像」(90018303)や「17.神奈川県江之島神社 裸形弁才天像（修理前）」(90018304)、「18.埼玉県飯能 小岩井無量寺 裸形弁才天」(90018305)、「19.神奈川県鎌倉 延命寺 裸形地藏」(90018306)など裸形の仏像の文化財写真を収めている。

前述のインタビュー記事によると、戦後の永江氏は、研究のため写真界の第一線を退いてはいるが、東京写真研究会の会員でもあり、日本山岳会にも所属していたとある²⁷⁾。晩年まで日本各地を飛び回り、貴重な文化財の撮影を一貫して続けたのである。

おわりに

本稿では当館に収蔵されている永江維章関係資料を概観し、その史料価値について検討した。従来、「永江維章」の人物像が分からず資料の位置づけもされてこなかった。かつ、あまりに膨大な資料群であるため、その総体を図ることができず、活用されることが少なかった。報告者は、デジタルアーカイブスのための資料整理にともない、永江氏の履歴にせまることができた。

特色ある写真資料群として、はじめに「日清日露風景」と題された、旅順大連の風景、裁判に関連した写真、安重根をはじめとした伊藤博文暗殺事件の関係者の近影などを紹介した。写真の裏面情報から、大正時代の初め頃には、永江氏は「旅順の法院」に勤務していた事が分かった。その後、帰国した永江氏は、関東大震災の記録写真の撮影に携わったとみられる。当館には、関東大震災の翌日に池袋付近から撮影した写真が収蔵されている。さらに「関東大震災」と題した写真資料群のうち航空写真が47点含まれていた。この航空写真の画像は鮮明であることから、永江氏は、撮影・印画に関係した一人であった可能性がある。

昭和初期の永江氏は、史跡名勝天然記念物保存協会に所属し、各地の文化財調査や見学旅行に参加した。この際に、参加者全員の集合記念写真を撮影したようで「斯界の名物男」として知られるようになった。当館収蔵資料にも、文化財調査時の写真とともに、集合写真が多数収蔵されている。さらに戦中期になると、紀元二千六百年記念行事の一環として刊行された『輝く肇国』の図版撮影に携わっている。この刊行の前年に、永江氏は『上代写真集』を上梓している。これらの刊行に関する撮影許可書など、一連の関係資料は、戦中期における文化財調査の実態を知る上でも貴重な事例である。

戦後の永江氏は、日本民土俗研究会を主宰し、各地の民俗調査に力点を置くようになる。収蔵時の聞き取りによると、「田遊び」は、永江氏が戦前採譜した歌詞、写真をもとに戦後行事が復活したという。「田遊び」に起因するものか、性崇拜に関する民俗資料を多く撮影しており、当館収蔵資料にも日本各地の性崇拜に関する民俗行事や石造物の写真が含まれている。

以上、本稿では当館収蔵の永江維章関係資料を概観した。しかしながら、本報告によって明らかにさ

れたのは永江氏のほんの一部に過ぎず、総体は未だ計り知れない。今後さらに当館収蔵資料の研究を深めるとともに、他館の永江氏撮影資料の調査をする必要がある。今後とも永江維章関係資料の史料性を含め検討を続けていきたい。

本号掲載にあたり、永江氏のご遺族に連絡を試みましたができませんでした。ご一報いただけますと幸いに存じます。

【註】

- 1) 朝日新聞社編『日本写真年鑑 昭和5年-昭和6年』(朝日新聞社, 1931年) p.101に「旧名博」とある。この時期に永江博から永江維章に改名したものと思しい。なお永江氏の生涯については本号掲載渡邊論文に詳しい。
- 2) 小林保夫・伊藤専成「板橋における文化財保護のあゆみ」(『板橋区立郷土資料館紀要』創刊号, 板橋区教育委員会, 1980年, pp.1-24)
- 3) 人物往来社編「土俗研究の異端者 全国を股にかけて50年永江維章氏」(『歴史読本』5 (5), 人物往来社, 1960年, p.96)
- 4) 岡塚章子「写された国宝 日本における文化財写真の系譜」(東京都写真美術館編『写された国宝 日本における文化財写真の系譜』, 東京都写真美術館, 2000年, pp.147-161)
- 5) 朝日新聞出版社編「写壇フース・フー」(『アサヒカメラ』7 (4) (37), 朝日新聞出版社, 1929年4月, pp.368-369)
- 6) 「御署名原本・明治三十九年・勅令第百九十六号・関東都督府官制」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. A03020679800、御署名原本・明治三十九年・勅令第百九十六号・関東都督府官制 (国立公文書館)
- 7) 「御署名原本・明治三十九年・勅令第百九十八号・関東都督府法院令」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. A03020680000、御署名原本・明治三十九年・勅令第百九十八号・関東都督府法院令 (国立公文書館)
- 8) 1997年に安重根の絶筆や処刑前の写真など87点の資料が龍谷大学図書館に寄託された。寄託された資料は明治40年代に旅順監獄で教諭師をしていた津田海純氏が収集したものとみられている (龍谷大学図書館報『来・ぶらり』No.17 (1997年12月))。2009年3月28日に京都龍谷大学安重根遺墨・関連資料展と日韓国際平和シンポジウムが開催された。以上の経緯は、李洙任「龍谷大学保管の安重根の歴史資料とその平和利用」(世界人権問題研究センター編『研究紀要』, 世界人権問題研究センター, 2023年6月, pp.41-62) に詳しい。歴史資料とその平和利用を見据えた上で、当館と他館の収蔵資料との比較研究も検討する必要がある。
- 9) 写真月報社編『写真月報』21 (1) (写真月報社, 1916年1月) p.69
- 10) 大正8年 (1919)、高橋慎二郎氏 (1879-1975) によって東洋乾板株式会社が設立した。東洋乾板は、その後の富士写真フイルム株式会社の前身である。なお「東洋乾板」上下が、富士写真フイルム株式会社編『富士写真フイルム株式会社二十年史』(マイクロ版「日本の会社史」(1994-1996, 丸善)) に所収されている。また高橋慎二郎氏の孫である高橋俊之氏が開設したホームページにも、創業時の従業員に「永江博」の掲載がある。(2023年10月16日閲覧, <https://takahashi.tokyo.jp/index.html>)
- 11) 関東大震災時の航空写真の研究については、王京「関東大震災と航空写真」(『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』, 神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議, 2007年12月, pp.147-179) に詳しい。
- 12) 関東戒厳司令部編『大正震災写真集』(偕行社, 1924年3月)。本写真帖には頁数がないため、掲載図版と比較するため、国立国会図書館デジタルコレクション (2023年10月16日閲覧, <https://dl.ndl.go.jp/pid/1872746/1/114>) のコマ数を便宜的に明記する。84コマ「関東大震災 飛行機より見たる浅草公園」(90011048)、72コマ「関東大震災 両国・蔵前付近航空写真」(90011045)、114コマ「関東大震災 飛行機上から見た日本橋・隅田川」(90011086) と同一の図版掲載が確認できた。
- 13) 東京市編『東京震災録写真帖及地図』(東京市, 1926年)。掲載図版を比較すると、p.34「関東大震災 飛行機より見たる浅草公園」(90011048)、p.38「関東大震災 両国・蔵前付近航空写真」(90011045)、p.41「関東大震災 飛行機上から見た日本橋・隅田川」(90011086) と同一の図版が確認できた。
- 14) 内務省社会局編『大正震災志写真帖』(内務省社会局, 1926年)。掲載図版を比較すると、p.43「飛行機より見たる馬

入川」と当館の「関東大震災 飛行機上より見たる馬入川沿岸の大亀裂と橋梁の墜落」（90011119）は別の構図である。あるいは同時期に撮影された可能性もあり今後のより詳細な比較研究が期待される。

- 15) オリエンタル写真工業株式会社編『オリエンタル写真工業株式会社三十年史』（オリエンタル写真工業, 1950年）pp.85-86
- 16) 前掲註5)
- 17) 奥平康弘「検閲制度」（『講座日本近代法発達史』11, 勁草書房, 1967年, p.139）
- 18) 文化庁『文化財保護法五十年史』（ぎょうせい, 2001年）p.206
- 19) 篠崎四郎「菊池サンと房総」（菊池山哉先生追悼号編集委員会編『東京史談 菊池山哉先生追悼号』, 東京史談, 1970年, p.176）
- 20) 大日本国本会編『輝く肇国』（大日本国本会, 1940年）の趣旨に永江氏の撮影である旨が明記されている。
- 21) 「内閣ニ紀元二千六百年祝典準備委員会ヲ設置ス」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.A14100443700、公文類聚・第五十九編・昭和十年・第三卷・官職一・官制一（内閣）（国立公文書館）
- 22) 国立国会図書館デジタルコレクションを用いて『輝く肇国』（前掲註20）と郷土史料写真社編『上代写真集』（郷土史料写真社, 1939年）の比較を実施した。
- 23) 文化庁国指定重要文化財等データベース（2023年10月16日閲覧,<https://kunishitei.bunka.go.jp/bssystem/index>）
- 24) 菊池山哉「田遊の新研究」（東京史談会編『東京史談』22（3）, 東京史談会, 1954年, 裏表紙見返し編輯後期参照）
- 25) 前掲註2）p.96
- 26) 梅原肇「日本の洞窟・七つの伝説」（『歴史読本』5（5）, 人物往来社, 1960年, p.176）
- 27) 前掲註2）p.96

